

会議名	第2回港区情報システムアドバイザー委託事業候補者選考委員会
開催日時	平成30年2月2日(金曜日) 午前10時から午前10時50分まで
開催場所	港区役所5階 511会議室
委員	学識経験者 内田 勝也(委員長) 総務部長 北本 治(副委員長) 学識経験者 山辺 直義(委員) 学識経験者 湯浅 壘道(委員) 港区情報政策監 川口 弘行(委員)
事務局	情報政策課 情報管理係
会議次第	1 開会 2 審議事項 (1) 第一次審査評価の集計結果について (2) 第一次審査通過事業者の決定について (3) 提案説明の実施について 3 その他 (1) 今後のスケジュールについて 4 閉会
配付資料	次第 資料1 第一次審査評価集計表(案) 資料1-2 第一次審査価格評価表(案) 資料2 第二次審査提案説明(プレゼンテーション及びヒアリング)概要(案) 資料2-2 提案説明(プレゼンテーション及びヒアリング)について(案) 資料3 今後のスケジュールについて 参考資料 第一次審査評価表(各委員集計)
会議の内容	
A委員	【1 開会】 (開会の挨拶) ~詳細省略~
事務局 B委員	【2 審議事項について】 (1) 第一次審査評価の集計結果について (資料1、資料1-2について説明) 委員によって点数のばらつきがあるが、基準をどこに置くかの違いであり、良いと考える。点数が相対的に低い委員もいるが、他の委員と差異はないもの と考える。

A委員	同意見である。事業者1と事業者2は、提案書がよくできていた。具体性に基準を置いたところ、事業者2はより具体性が高かった。事務局に伺うが、評価の段階の差について問題はないか。
事務局	委員の中で多少の差はあるが、問題はない。
C委員	提案書は、事業者2の提案に最も実現性があった。事業者4については、会社の規模は大きいですが、提案書の内容は不安に感じた。事業者1は提案資料としては内容が薄い気がした。事業者2は提案書の字が小さく読みづらかったが、内容と実現性を考えるとそのように感じた。
D委員	提案書が提出された3事業者を見ると、事業者4は構成が粗く、参考資料もついているが、どのように評価してよいかも不明であった。各委員が言われたように事業者1と事業者2は拮抗しており、よくできていると感じた。ただ、事業者2はスケジュールが記載されているが、このとおりに実行できるか不安があり、提案説明でヒアリングをして確認したほうがよいと感じた。
E委員	他の委員と同意見である。事業者4については、資料は分厚いが、他の案件の資料を使い回しているように感じた。事業者1と事業者2は、全体的に港区の特性をよく見たうえで、提案をしているように感じた。事業者2は提案書が見にくい部分もあったが、事業者1より若干高い点数にした。結果的に評価の基準の差はあるが、委員の点数はほぼ同じ評価になっており、妥当な審査結果になっていると考える。
C委員	資料1-2の価格評価表の点数について、詳細な説明を。
事務局	価格点は、小数点第2位を四捨五入した数値を表示している。第一次審査における各委員の評価合計点は価格点の小数点第1位を四捨五入した数値を5倍し、表示している。
C委員	承知した。
B委員	提案書の優劣は今まで議論した通りであるが、見積書を見ると、気になる箇所がある。事業者1と事業者2の見積について、この作業に当たる工数と単価が示されているが、単価と工数がかい離している。事業者2の業務の実施に当たっては、この単価で働く人員が継続的に港区で業務をしていけるのか疑問である。また、契約後の業務の実施に当たり、実際の業務実施従事者が提案書の内容と異なることになるのは良くない。第3回選考委員会の提案説明で、業務従事者の考え方などをヒアリングし、説明してもらう必要がある。
事務局	単価の乖離がある点について事務局の考えを説明する。港区が契約している大手ベンダのシステムエンジニアの単価に比べ、相場より低いのが事業者2で、高いのが事業者1である。コンサルティング業界なので、直接的に比較できるかはわからないが、人員の質という点では、今後検討、確認していく必要があるのではと考える。
A委員	事業者1も事業者2も両方に共通して、カテゴリに対してリーダーをつけているが、その下のメンバーも重要だと考えている。プレゼンテーションの人数

事務局	<p>の制限についてはどのように考えるか。</p> <p>2次のプレゼンテーションのメンバーについては、資料2及び資料2-2で後程説明するが、ご指摘のとおり、それぞれのプロジェクトの責任者の能力やスキルを見ていただきたい。ただし、第二次審査の会場の都合上、今回は6名の参加を上限としたいと考えている。</p>
A委員	承知した。
A委員	それでは、第一次審査評価集計表はこのとおり採用し、次の議題に進む。
	<p><b>(2) 第一次審査通過事業者の決定について</b></p>
A委員	<p>では、次に、審議事項(2)第一次審査通過事業者の決定について、第1回選考委員会の資料6「事業候補者の選考と評価について」で、第一次審査の通過者は最大3者程度としている。第一次審査通過の対象について、ご意見があれば、お聞かせいただきたい。</p>
A委員	<p>事業者1と事業者2の第一次審査の評価点は、概ね、第一次審査合計得点の60パーセント程度を取得している。第二次審査の逆転の可能性を考えると事業者1と事業者2のみでよいのではないかと考えるが、ご意見はあるか。</p>
B委員	<p>私もその意見に賛成である。3者聞いてもいいが、トータルの時間は同じであれば、事業者1と事業者2でそれぞれ厚みのあるヒアリングをしたほうがいいのではないか。</p>
事務局	<p>理論上の逆転の可能性という観点からすれば、2次審査の配点が委員一人あたり800点、委員5人の合計が4000点なので、理論上は逆転が可能だが、先ほど委員が言われたように第一次審査の合格点は概ね6割以上なので、そのあたりも含めて皆様でご評価いただければと思う。</p>
D委員	<p>他の委員と同意見である。第一次審査の合計を見ると、事業者4は合格点の6割に達していない。事業者1と事業者2を第一次審査通過事業者とし、ヒアリングを厚めにすればよいのではないか。</p>
E委員	<p>同意見である。質疑応答が1者10分は短い。1委員1分程度しかない計算になる。できれば質問の時間は延ばしたほうがよい。事業者1と事業者2の第一次審査の得点は拮抗しているので、質問の時間は増やすべきである。</p>
C委員	私も同意見である。
A委員	<p>第一次審査通過事業者は事業者番号1、事業者番号2とすることで決定してよろしいか。</p>
全員	異議なし。
	<p><b>(3) 提案説明の実施について</b> (資料2、資料2-2について説明)</p>

事務局	資料のスケジュールは3者の場合を想定したスケジュールで示されているが、第一次審査通過事業者が2者であることや審議いただいた意見を元に、スケジュールを修正させていただく。
A委員	事務局から2者を想定した、修正されたスケジュール案の提示があったが、意見はあるか。
全員	(特になし。)
事務局	事務局から提案いただいたスケジュールで調整するという事によろしいか。
全員	異議なし。
A委員	それではこの内容で、一次審査通過事業者へ通知するという事によいか。
全員	異議なし。
	<b>【3 その他】</b>
事務局	(1) 今後のスケジュールについて (資料3について説明)
全員	特になし
	<b>【4 閉会】</b>
A委員	(委員長より閉会の挨拶) ~詳細省略~